

一般社団法人日本医真菌学会 2022 年度第 2 回理事会議事録

日時：2023 年 2 月 28 日（火）18：00～20：00

場所：オンライン開催（Zoom）

出席：澁谷和俊（理事長）

泉川公一、金子健彦、神田善伸、杉田隆、原田和俊、福田知雄、宮崎義継、

矢口貴志、山岸由佳 以上理事 10 名

小川祐美、長尾美紀 以上監事 2 名

阿部雅広、掛屋 弘、佐藤友隆、森 毅彦、若山 恵 以上幹事 5 名

欠席：

榎村浩一（理事）

議題：

1. 前回理事会および代議員総会議事録確認（宮崎総務理事）

前回理事会議事録および代議員総会議事録の確認を行った。この会の終了までに意見がなければ確定とし、ホームページに公開することとした。

2. メール審議結果報告（澁谷理事長）

2022 年度第 1 回～3 回のメール審議の結果を確認した。

3. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2023 年 1 月 31 日時点の会員数の報告があった。合計で 952 名となり、会員数の増加がみられた。

4. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（宮崎理事）

①2022 年 9 月～2023 年 1 月の投稿論文数は 17 編であり、年度末には昨年並みの論文数となる予定である。インパクトファクター取得に先立ち、編集体制を試行しており、国外からの投稿はリジェクトする論文が増えている。

②第 66 回学術集会におけるシンポジウムの演者への執筆依頼を行い、12 名より承諾を得ている。

③広告掲載の申込企業について報告があった。2023 年より 1 社の新規申込があり、計 8 社となった。

2) 用語委員会（矢口理事）

①2023 年 1 月 26 日に開催された日本医学会分科会用語委員会の報告があった。

②日本医真菌学会雑誌に掲載してきた用語解説について、代議員にアンケートを行ったことが報告された。用語解説は約 90%に読まれていたが、掲載を中止しても構わないという意見が半数以上あった。この結果を踏まえ、一旦掲載を中止し、委員会で今後の方針を検討することとした。

③*Coccidioides immitis*、*Coccidioides posadasii* のカタカナ表記について委員会で審議しており、次回理事会に提案することが報告された。

3) 将来計画委員会（神田理事）

今年はイサブコナゾールが上市する影響で、企業主催の講演会が増える見込みであるため、演者の先生と協力して講演を通して本学会の周知を図ることを検討している。

4) ガイドライン検討委員会（泉川理事）

①希少真菌症診断治療のガイドライン（仮称）作成委員会（掛屋幹事）

原稿の取りまとめを行っており、あと3編で全ての原稿が揃う予定であることが報告された。

②泉川理事より、アスペルギルスガイドラインの改訂が提案され、次回理事会で作成委員会の委員候補を提案することとした。

5) 支部会・関連学会委員会（泉川理事）

支部会、関連学会の開催状況と開催予定について説明があり、2023年に北海道で第1回の支部会が行われることが報告された。企業共催でハイブリッド開催を予定しており、北海道全域に加えて、全国からも参加可能な形態をとることとしている。

6) 疫学調査委員会（福田理事）

2021年の調査結果は、予定通り2023年中に論文掲載ができる見込みである。また、次回2026年の疫学調査に向けて、来年から協力施設の選考を進める予定である。

7) 教育委員会（杉田理事）

日本臨床微生物学会、日本細菌学会にてシンポジウムの共催を行ったことが報告された。皮膚真菌症指導者講習会については、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら対面での開催を検討することとした。

8) 広報委員会（槇村理事：欠席）

報告事項なし。

9) 専門医・認定師委員会（原田理事）

専門医更新の際に総会参加を義務付けるよう細則変更を行ったため、今年度より申請書類を変更し、更新通知を行ったことが報告された。

10) 規約検討委員会（金子理事）

後述する。

11) 倫理委員会（長尾監事）

症例報告を含む医学論文及び学会発表における個人情報保護に関する指針の作成について提案があった。指針の文面については委員会で最終案を作成した後、メール審議を行い、ホームページ等に掲載することとした。

12) 利益相反委員会（金子理事）

報告事項なし。

13) バイオセーフティ委員会（阿部幹事）

報告事項なし。

5. 第67～68回総会準備状況報告

1) 第67回総会報告（福田理事）

下記日程で現地でのみの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、ハイブリッド開催とすることが報告された。

会期：2023年10月6日（金）～10月7日（土）

会場：川越プリンスホテル

また、特に共催セミナーにおいて、企業の財政状況によって共催募集に苦労したため、来年以降会長をサポートする体制づくりが提案された。

2) 第68回総会報告（杉田理事）

APSMM と合同開催とし、APSMM は前半の日程でハイブリッド開催、第 68 回総会は後半の日程で現地開催を予定している。また澁谷理事長より、国際学会となるため、国際学会等積立金の一部を使用することが提案された。

会期：2024 年 11 月 6 日（水）～9 日（土）

会場：国立京都国際会館

6. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

報告事項なし。

7. ICD 制度協議会報告（金子幹事）

第 67 回総会での講習会実施に向けて準備を進めている。

8. 内保連報告（森幹事）

令和 6 年度社会保険診療報酬改定提案書について、本学会からは、日本皮膚科学会、日本臨床皮膚科医会と共同提案となる「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」、日本感染症学会、日本呼吸器学会と共同提案となる「抗アスペルギルス抗体測定」、これに加えて「外来における治療薬物モニタリング（ポリコナゾール）」3 項目の提案を出しており、2023 年 4 月の最終提案書の提出に向けて準備を進めている。「外来における治療薬物モニタリング（ポリコナゾール）」については、過去の提案状況が不明であり、どの学会と共同提案できるかが分からないことから、関係する企業や学会に確認を取ることとした。

9. 医学会・医学会連合、女性医師支援担当者連絡会に関する報告（若山幹事・小川監事）

医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関しては特に報告事項はないと小川監事より述べられた。続いて、若山幹事より 2023 年 2 月 10 日に日本医学会連合加盟学会連絡協議会に参加し、ダイバーシティについての現状と課題に関して発表があったことが報告された。

10. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

報告事項なし。

11. その他

1) 名誉会員の逝去について（澁谷理事長）

名誉会員の宗義朗先生がご逝去されたことが報告された。また、名誉会員のご逝去の知らせが学会まで届かないことがあるため、総会の案内を送付し、返信がない場合に個別に確認をとることとした。

2) 『侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン』の Minds への目次掲載について（澁谷理事長）

診療ガイドラインデータベース「Minds」より、『侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン』の掲載依頼があった。当初は全文掲載の依頼であったが、販売書籍であることから、目次のみ公開を許諾したことが報告された。宮崎理事より、作成委員長の竹末芳生先生と相談し、2～3 年を目途に一部改訂が検討されているため、その頃に全文掲載するのがよいのではないかとの意見があった。

3) 一般財団法人シオノギ感染症研究振興財団のホームページリンクについて（澁谷理事長）

一般財団法人シオノギ感染症研究振興財団より、研究助成募集について本学会ホームページへのリンク掲載依頼があり、担当役員で協議した結果、掲載することになった旨、報告があった。

4) 日本医療政策機構 AMR アライアンス・ジャパン年度企画会議報告（澁谷理事長）

2023年2月2日に開催された、日本医療政策機構 AMR アライアンス・ジャパン年度企画会議に参加したことが報告された。企業と学会が協同し、AMR 対策に関して、G7に向けた提言書の提出に動いている。

審議

12. APSMM の今後の予定について（杉田理事）

審議事項はなく、次回以降の理事会で審議することとした。

13. 理事会議事録の HP 公開手続きについて（澁谷理事長）

これまで理事会議事録は、次に開催される理事会で承認された後に、ホームページ公開と会員にメール配信を行ってきた。今後は、会員に早期に公開できるよう、役員全員に内容確認を求め、最終案についてメール審議を行った後に公開することが承認された。

14. 学会賞選考委員会委員長の選出について（澁谷理事長）

学会賞選考委員会委員長は、委員によるメール互選で選出することが承認された。

15. 学術賞・次世代研究者賞選考委員の選出について（杉田理事）

2023年の日本医真菌学会学術賞および次世代研究者賞選考委員の選出を、代議員によるメール投票にて行ったことが報告された。選出委員は下記の6名(敬称略・50音順)である。

基礎領域：加納 壘、澁谷 和俊、榎村 浩一

臨床領域：佐藤 友隆、原田 和俊、宮崎 義継

澁谷理事長より、選考委員会に理事長の意向が反映されないことが望ましいため、就任辞退の申し入れがあり、承認された。続いて、基礎領域の追加選出として、次点の矢口貴志理事が選出され、承認された。

16. 第42回 関東医真菌懇話会からのメール配信・チラシの会誌同封の依頼について（澁谷理事長）

第42回関東医真菌懇話会より、メール配信およびチラシの会誌同封にて告知依頼があった。以前より関東医真菌懇話会からはこの依頼を受けていたが、支部会・関連学会の活動が活発化しており、今後は各会統一の対応を行うことが必要である。このため、費用が高いチラシ同封は行わず、支部会・関連学会が希望する場合は、本学会会員宛のメール配信を行うことが提案され、異論なく承認された。このあと、支部会・関連学会の担当者にメールで希望をとることとした。

17. 感染症法の届出基準修正について。学会からの厚労省申し入れの可否について（宮崎理事）

感染症法に規定されているコクシジオイデス症の届出基準の検査法は、1999年4月以降一度も変更されておらず、現状にそぐわないものとなっている。学会からの提言としてこの届出基準の改訂を検討するために、WGを発足させ、提言案を作成したことが報告された。提言の内容についてはメール審議に諮ることとした。

18. インボイス制度に基づく適格請求書発行事業者登録について（山岸理事）

2023年10月より開始されるインボイス制度の概要と、本学会の消費税課税対象収入の状況について説明があり、一般社団法人日本医真菌学会が適格請求書発行事業者の登録を行うことが承認された。

報告事項での審議事項

1) 規約検討委員会（金子理事）

若手研究者奨学金（仮称）の基本計画、規約案について説明があった。方針として、満 35 歳未満の会員歴 2 年以上の会員若干名を対象とし、交付金額の総額は 100 万円とする。ただし、審査の過程で減額されることがあると記載する。当面の間、給付金の総額は 100 万円として、年次予算に組み入れる。なお、前年度繰越金総額の 3% を上限として、理事会で金額を改めることは可能とする。給付は個人宛てではなく、受給者の研究室のある大学等への寄付とする。助成対象として採択された研究は、報告書提出と学術集会発表を求める。また、選考委員会のメンバーは理事長を除く、理事全員とする。これらの方針は異論なく承認された。規約は委員会で条文化し、最終案は馬目顧問会計士の確認を経て、理事会、代議員総会に諮ることとした。

19. その他

- ①宮崎理事より、カンジダ・アウリスの菌血症例が九州地方で確認されたことが報告され、必要があれば、研究、検査等に学会が連携できるよう呼びかけられた。
- ②澁谷理事長より、日本医学会連合の厚労科研の委託研究として、COVID-19 に関わる真菌研究を行っているが、今年も同じように研究費を獲得できる場合は、申請可能な研究について代議員にヒアリングを行う旨、報告があった。

以上

2023 年 2 月 28 日

議事録作成人 澁谷和俊

議事録署名人 小川祐美

議事録署名人 長尾美紀